THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL
2018.12／DECEMBER
No.369
JSQCニュース

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1-2-1　日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03 (5378) 1506　FAX.03 (5378) 1507
ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1-トピックス　品質工学会との共同研究会始動
2-私の提言　AIと人間性尊重
2-ルポルタージュ　JSQC規格「日常管理の本質を学ぶ」講習会ルポ
3-第48年度事業計画／10・11月の入会者紹介／研究助成募集のお知らせ
4-行事案内／第48年度役員体制役割分担

品質工学会との共同研究会始動

独立行政法人統計センター　椿　広計

2018年10月30日、JSQC生産革新部会の新研究会､「商品開発プロセス研究会」第1回研究会が、日本規格協会で開催されました。委員自己紹介に続き、近岡淳氏(近岡技術経営研究所)が研究目的、山田秀氏（慶応大学）がJSQC規格の体系と「新製品開発の指針」案、椿がISO TC69/SC8「新製品・新技術開発加速技法」が開発したISO 16355シリーズ「新製品・新技術開発プロセス」、田口伸氏（American Supplier Institute）がDFSS（Design For Six Sigma）の概要を紹介しました。新研究会は、JSQCと一般社団法人品質工学会（Robust Quality Engineering Society，以下RQES）が、両理事会の議を経て立ち上げた共同研究会で、二学会共同研究会は、JSQC・サービス学会両理事会で立ち上げた、サービスエクセレンス部会の「サービスのQ計画研究会」に続く二例目です。RQESは1998年に創設され、JSQC名誉会員だった田口玄一氏が創生したタグチメソッドを基に、技術開発戦略などの展開を目指してきた学会です。1990年代までは、JSQCにも「パラメータ設計研究会」などタグチメソッドの研究会が存在し、品質誌にもその種の特集が組まれていました。しかし、RQES立ち上げ後、両学会の交流はありませんでした。

2年前JSQCとRQESとの両学会理事だった、藤本眞男氏（当時、日本規格協会）から、Qに関するオールジャパンの連携を目指す JAQ運動として、品質系２学会を繋ぐ研究活動開発提案を頂戴しました。その後、谷本勲RQES会長（アルプス電気会長)、近岡RQES理事と会談し、顧客志向商品開発に関わる研究会の立ち上げに合意しました。私の会長退任後、JSQCから椿、山田理事（47年度研究開発担当)、大藤正氏（玉川大学)、永井一志氏（玉川大学)、RQESからは近岡理事を中心に事務機器業界を中心とする幹部と、第47年度準備会合を続け、研究会立ち上げ方針を議論しました。研究目的は、商品開発に資する汎用的な技術体系の構築、その産業界全般への発信、更に日本主導の標準化活動推進としました。これにより、社会の生産性向上とQuality Excellenceの革新に資することができると考えました。新研究会は、個別の管理技術を研究対象とするのではなく、多様な管理技術をモジュールとした効果的、効率的な商品開発プロセスを迅速に設計・実装し、開発プロセスを的確にマネジメントする総合的経営技術の確立を研究します。初年度は、両学会の強みを把握した上で、商品開発で活用される汎用技術･管理技術を整理し、その効用･問題点を分析します。第2年度から第3年度にかけては、整理した汎用技術・管理技術の体系化モデルを考案します。モデル対象業種を当面事務機並びに自動車の２業種とし、協力企業を発掘し、実践の中で更なる課題抽出します。また、新たな汎用技術・管理技術体系を考案し、成果としてまとめ、来年以降、山本渉氏（電気通信大学）が議長に就任するISO TC 69/SC8「新製品・新技術開発加速」や、田口氏を主査に推す国際的な動きが加速するTC 69/SC7 DFSS（Design For Six Sigma）等の国際標準化活動で、研究成果を万全に活かせればと考えます。

こうしてRQESでは9月、JSQCでは11月の理事会で3年間の研究会設置が承認され、総勢22名の研究会委員が指名されました。JSQCは管理技術を開発してきた学が中心。RQESは､技術開発に携わってきた産業界中心､それに日本規格協会､日本科学技術連盟の委員が加わるという構成になっています。第1回研究会でJSQCの研究会としての主査は椿が、幹事は山本氏が、RQESの研究会としての主査は近岡理事が、幹事はJSQC会員でもある細川哲夫氏（リコー）が務めることになり、1－2か月に1回、両学会の持ち回りで研究会活動を進めます。

今後、シンポジウムなどを企画したり､両学会誌への報告を行ったりして、両学会会員に研究成果を還元したいと考えます。JSQC会員の皆様方には、何卒今後の商品開発プロセス研究会活動へのご意見などお寄せいただければ幸甚です。

● 私 の 提 言 ●

AIと人間性尊重

㈱日科技連出版社　戸羽　節文

気になることがあって、石川馨先生の『日本的品質管理〈増補版〉』を読み返してみた。本書は1984年に刊行されたが、その翌年春の入社内定を受けた私に、当時の取締役から「これから品質管理に携わる仕事をするのだから、まずはこの本を読みなさい」と渡された本である。

もう30年以上も前に出版された本であるが、今の時代も色褪せない、光り輝く言葉があちらこちらに記されている。企業経営の目的は、①人、②品質、③価格・原価・利益、④量・納期として、まず第一に「人」が挙げられ、「経営で最初に考えなければならないのは、企業に関係する人間の幸福である。企業に関係する人間が幸福になれないような、幸福と思えないような企業は存続する価値がない」と書かれている。そして、その「人」とは、従業員、消費者、株主の順である。「まずは従業員が適切な収入を得て、人間性が尊重され、楽しく働くことができ、幸福な生活が送れるということである。この従業員の中には、その企業に関連する外注企業、販売・サービス企業の人たちも当然含まれる」とある。

現代は、AIやIoT、ビッグデータの活用によって、企業・組織も社会も大きく変わる時期にある。日本経済新聞によると、「経済協力開発機構（OECD）は、2030年には32カ国の職業の46%、2億1千万人の仕事が、AIやロボットの影響を受けると試算している。人は新しいアイデアや技術を生むことが使命となる。企業も社員が創造的な仕事ができるように根底から変わらざるを得ない」とある。

こうした変革期にあって忘れてはならないことは、AI、IoT、ビッグデータは手段であり、道具であって、主役はあくまでも人であり、人間性尊重の理念である。人が中心の企業・組織であり、社会であるということである。

AIに人が支配された世界を描いた映画『ターミネーター』の舞台は2029年である。私たちは、この物語を現実のものとしてはいけない。

JSQC規格講習会ルポ

日常管理の指針「日常管理の本質を学ぶ」

2018年8月8日㈬、西日本支部としての行事の第二弾となるJSQC規格「日常管理の指針」講習会「日常管理の本質を学ぶ」が広島の地で開催されました。受講者は24名。広島工業大学広島校舎にて、広島地域で品質経営に関する活動を行なっている中国地区品質経営協会のご後援もいただき、開催する運びとなりました。これまで広島では、学会主催の行事はありませんでしたので、今回、初めての開催となりました。

講習会は、小原好一会長の日本品質管理学会および西日本支部の紹介を含む開会挨拶の後、JSQC規格「日常管理の指針」策定に原案作成委員会委員長として直接携わられた中條武志先生によって進められました。講義では、規格制定のねらいから始まり、規格の内容である⑴日常管理の基本、⑵日常管理の進め方（標準化）、⑶日常管理の進め方（異常の検出と処置）、⑷上位管理者の役割・部門別の日常管理、そして、⑸日常管理の推進の５つのパートを、規格作成段階の話題も織り混ぜながら、丁寧に解説していただきました。また、規格文書は淡々と書かれているが一つ一つの規格文書の裏側に秘めている意図への思いは大きいなども紹介していただき、規格がより身近に感じられるきっかけになったのではないかと思います。

また、解説後の質疑応答では、中條先生の上手なリードにより、受講者24名全員が質問できる雰囲気が作り上げられ、受講者一人一人の抱えている悩みを受講者皆で共有し，多くの討論が行われました。受講者からは、自らの部署にどのように適用すれば良いかなどの具体的な質問も複数あり、知識として持ち帰るだけでなく、実際に活用してみようという意欲があることが感じられました。また、この講習を受講したことで、今まで曖昧であった日常管理と方針管理の違いが整理されたとの声もあり、受講者すべての人にとって得るものが多い講習会になったと感じました。

西日本支部として7月3日の福岡でのJSQC規格「方針管理の指針」講習会に続いて，本年度から活動がスタートしました。今後、規格講習会の他、事業所見学会等も企画していこうと考えていますので、ご興味がありましたら、是非、ご参加ください。

長坂　康史（西日本支部支部長）

一般社団法人 日本品質管理学会 第48年度事業計画

行事／月		2018 10月	11月	12月	2019 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
年次大会・通常総会			第48回年次大会 16(金)−17(土) 関西大学												第49回年次大会 (東京・早稲田大) 23日（土祝）
研究発表会	本部								第119回 25日(土)						
	中部											第120回			
	関西												第121回		
講演会	本部・中部・関西・西日本	第134回本部 10日(水)							第137回本部 9日(木)		第135回 関西	第136回 中部			
講習会	標準委員会	JSQC規格 小集団活動 26日(金)			JSQC規格 品質管理教育 31日(木)										
シンポジウム	本部・東日本・中部・関西			第166回本部 20日(木)						第167回 中部	第168回 関西				
クオリティトーク	東日本		第110回 6日(火)			○		○		○					
事業所見学会(案) 第406〜416回	東日本		第407回 1日(木) キッコーマン	第408回 4日(火) 富士ゼロックス			○		○						
	西日本	第406回 3日(水) 安川電機									○				
	中部					○				○					
	関西						○			○					
QCサロン（関西）		23日(火)													
その他の行事				安心・安全 ワークショップ 22日(土)			TQEフォーラム 23日(土)								
会合／月		2018 10月	11月	12月	2019 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
理事会			446回、447回 2日(金)、17日(土)	448回 7日(金)	449回 22日(火)		450回 15日(金)		451回 20日(月)		452回 18日(木)		453回 17日(火)		454回 5日(火)
庶務委員会		24日(水)		3日(月)	15日(火)		11日(月)		13日(月)						
学術委員会	論文誌編集委員会	4日(木)	8日(木)	26日(水)	31日(木)	27日(水)	27日(水)								

※論文投稿は委員会の開催10日前までにお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

2018年10月の入会者紹介

2018年10月16日の理事会審議において、下記の通り正会員10名、準会員2名、職域会員1名、賛助会員1社1口、公共会員1社1口の入会が承認されました。

（正会員10名）○泉井　一浩（京都大学）○中尾　優作（システム規格社）○山梨　泰（東芝キャリア）○副野　隆英（竹中工務店）○當間　孝次（オムロン）○渡辺　克彦（富士通クオリティ・ラボ）○木村　勝哉（ソニーセミコンダクタソリューションズ）○佐藤　孝司（日本電気）○知念　広秋（愛知製鋼）○平塚　傑工（ナノテック）

（準会員2名）　○山田　博己（東京大学）○川名　友明（名桜大学）

（職域会員1名）○山田　敏寛（ダスキン）

（賛助会員1社1口）○東芝機械

（公共会員1社1口）○京都保健衛生専門学校

事務局からのお知らせ

第48年度研究助成募集要項

趣　　旨：21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

助成金額：１件5万円　４件以内

期　　間：１年間（第48年度：2018年10月から2019年９月）

募集期間：2018年12月〜2019年３月末日

詳　　細：http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html

2018年11月の入会者紹介

2018年11月2日の理事会において、下記の通り正会員7名、職域会員3名の入会が承認されました。

（正会員7名）○竹田　一雄・山岡　悦子（若竹大寿会）○福本　卓郎（伊藤金属製作所）○山﨑　真弓（北里第一三共ワクチン）○原　辰徳（東京大学）○出口　克彦（東芝エネルギーシステムズ）○金田　博和（エイチワン）

（職域会員3名）　○黒瀬　歩（日本原子力研究開発機構）○楢井　克己（大和ランテック）○橋本　芳己（川重艦艇エンジンサービス）

名誉会員：23名
正　会　員：1813名
準　会　員：70名
職域会員：47名
賛助会員：140社186口
賛助職域会員：4名
公共会員：17口

行 事 案 内

●第166回シンポジウム（東日本）

テーマ：人材育成におけるQC検定利活用
日　時：2018年12月20日㈭10：00～17：00
会　場：日科技連東高円寺ビル 2階講堂
定　員：100名
プログラム：
基調講演「品質管理検定のこれまでとこれから：社会人に必要なQCの知識と力量」
椿 広計氏（統計センター）
講演
稲葉 喜彦氏（品質管理検定センター）
事例講演
西山 雄一郎氏（コロナ）
荒井 秀明氏（小松製作所）
和根崎 誠氏（GSユアサ）
久保山 貴博氏（茅野･産業新興プラザ）
パネル討論会
リーダー：新藤 久和氏（山梨大学）
パネラー：上記講演者
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h301220

●第19回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

テーマ：情報・知識の共有による安全・安心の確保
日　時：2018年12月22日㈯13：00～17：30
会　場：筑波大学東京キャンパス文京校舎
定　員：200名
プログラム：
「品質賞受賞組織に見る、情報・知識の共有による安全・安心の確保」
中條 武志氏（中央大学）
「災害時の安否確認システム－成功のポイントと難しさ」
妹尾 義之氏（構造計画研究所）
「制御システムセキュリティの重要性－CSSCの取り組みを中心にして」
高橋 信氏（東北大学）
パネルディスカッション
コーディネータ：
伊藤 誠氏（筑波大学）
パネリスト：
五福 明夫氏（岡山大学）
首藤 由紀氏（社会安全研究所）
他 上記講演者
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h301222

●JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会

テーマ：TQMの実践に必要な人材を育てる
日　時：2019年1月25日㈮13：00～17：30
会　場：早稲田大学 西早稲田キャンパス
定　員：70名
プログラム：
1．JSQC規格「品質管理教育の指針」制定のねらい
2．品質管理教育の基本
3．品質管理教育の計画
4．研修プログラムの運営
5．品質管理教育の評価・改善
6．TQM推進段階別・部門別・地域別の品質管理教育
7．全体討論
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310125

●第119回QCサロン（関西）

テーマ：コンテック小牧事業所におけるIoT導入の活動について
ゲスト：服部 和則氏（コンテック）
日　時：2019年2月6日㈬19：00～20：30
会　場：新藤田ビル11階研修室（日科技連・大阪事務所）
参加費：1,000円（含軽食・当日払い）
申込先：関西支部事務局
詳　細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310206

●特別座談会「TQM再構築と推進の勘所」

（先人の知恵を借りる）
日　時：2019年2月19日㈫13：30～18：00
会　場：東京都市大学世田谷キャンパス
登壇者：中條 武志氏（中央大学）
荒井 秀明氏（小松製作所）
古谷 健夫氏（トヨタ自動車）
光藤 義郎氏（文化学園大学）
村川 賢司氏（前田建設工業㈱）
プログラム：
1．品質管理推進功労賞受賞者の自己紹介・他己紹介
2．座談会
司会：中條 武志氏（中央大学）
3．受賞者との直接面談・懇親

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
本　部：TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail:apply@jsqc.org
中部支部：TEL 052-221-8318
FAX 052-203-4806
E-mail:nagoya51@jsa.or.jp
関西支部：TEL 06-6341-4627
FAX 06-6341-4615
E-mail:kansai@jsqc.org

第48年度役員体制決まる

会　長	棟近　雅彦	早稲田大学
副会長	浅羽登志也	IIJイノベーションインスティテュート
〃	鈴木　知道	東京理科大学
理　事	新木　　純	積水化学工業
〃	伊藤　　誠	筑波大学
〃	茨木　陽介	ＩＴコーディネータ
〃	小野寺将人	日本科学技術連盟
〃	川村　大伸	名古屋工業大学
〃	金子　雅明	東海大学
〃	斉藤　　忠	岡谷電機産業
〃	佐野　雅隆	千葉工業大学
〃	鈴木　秀男	慶應義塾大学
〃	永井　義満	明治大学
〃	長坂　康史	広島工業大学
〃	鱠谷　佳和	村田製作所
〃	新倉　健一	前田建設工業
〃	西　　敏明	岡山商科大学
〃	平林　良人	テクノファ
〃	古谷　健夫	トヨタ自動車
〃	松浦　　峻	慶應義塾大学
〃	森田　　浩	大阪大学
〃	山本　　渉	電気通信大学
〃	横田　博史	愛知製鋼
〃	吉川　勝也	日本規格協会
〃	渡辺　喜道	山梨大学
監　事	末岡　　徹	キタック
〃	田中　健次	電気通信大学
〃	光藤　義郎	文化学園大学
顧　問	大久保尚武	積水化学工業
〃	小原　好一	前田建設工業
〃	椿　　広計	統計センター

第48年度役員役割分担表

総合企画	◎棟近　浅羽　鈴木(知)
JAQ設立準備	◎新木　小野寺　吉川
庶務	◎金子　新倉　山本
選挙管理、庶務	◎金子　新倉
会員サービス	◎永井(義)
規定	◎吉川
会計	◎小野寺
品質管理推進功労賞	◎棟近　浅羽　鈴木(知)
公益化特別	◎新倉　小野寺　鈴木(秀)
活動	◎棟近　松浦　鈴木(秀)
事業・広報	◎斉藤　茨木　鈴木(知)
研究開発	◎鈴木(秀)
学会誌編集	◎伊藤
JSQC選書特別	◎[飯塚(悦)]
QC相談室特別	◎森田
東日本支部	◎浅羽
中部支部	◎[仁科] 川村　古谷　横田
関西支部	◎鱠谷　森田
西日本支部	◎長坂　西
サービスエクセレンス部会／生産革新部会	◎浅羽　◎[水流]
医療の質・安全部会	◎棟近
ソフトウェア部会	◎[兼子]
管理技術部会	◎金子　平林　[福丸]
標準	◎平林
学術	◎渡辺
論文誌編集	◎渡辺　佐野　松浦
Total Quality Science 編集	◎[黒木]　松浦
最優秀論文賞／研究奨励賞	◎鈴木(知)　渡辺
品質技術賞	◎浅羽　伊藤
研究助成特別	◎川村
学会間交流	◎佐野　松浦
FMES・横幹	◎金子　松浦
国際（ANQ）	◎佐野　鈴木(知)
安全・安心社会技術連携特別	◎伊藤　[中條]
TQE特別委員会	◎[鈴木(和)]

◎委員長、支部長、部会長　[ ] 役員以外の方